



3.11の事実を見つめ 命を守り生きる喜びを育てる保育を学び考えよう

全国保育問題研究協議会

第30回 夏季セミナー

1日目 宮城県仙台市 宮城野区文化センター
2日目 宮城県仙台市 仙台市福祉プラザ

3.11 東日本大震災から2年が経過しました。多くの子どもたち、人々の尊い命が失われ、原発事故の衝撃と健康被害への不安など、凄まじい状況の中で被災された方々が生きてこられました。2年の経過の中でまだ癒えない深い悲しみや生活再建への不安は続いておられます。そのような中で第30回夏季セミナーを仙台で開催することになりました。

被災地仙台で行う意味はあの日の被災の事実と子どもたちの命を守った保育について全国の仲間たちと学び、被災された方々に心を寄せ忘れないでいくことだと思います。また災害時の保育のありかたについて学び今後に生かしていかなければなりません。

そして、改めて子どもたちの命を守り、遊びの中で生き生きと命を輝かせることの大切さを学び合いたいと思います

2013年 8月 24日(土)14時より
25日(日)13時まで

申込締め切り日
2013年
8月16日(木)

参加費 6500円・学生3500円 (東北6県に限り3000円・1日2000円) 定員200名

1 8月24日(土)
日目

◇ 受付 13:00

◇ あいさつ 実行委員長 丹野 広子 14:10
代表 鈴木 牧夫

◇ 講演 14:10~15:10

「子どもたちの命を守る3.11～あの日私たちはどう判断し行動したか」

前 巨理町立保育所所長 鈴木由美子

◇ シンポジウム 15:20~16:50

「震災から学ぶ ～生命を守る保育現場の取り組み～」

コーディネーター 鈴木牧夫(東京保問研)

シンポジスト 渡辺圭吾(巨理町立荒浜保育所)・高橋悦子(仙台市乳銀杏保育園)
斉藤美智子(福島市さくら保育園)・小泉香世(東京保問研)

3.11の大震災は、私たちに生きることの意味を改めて問う事象でもありました。人は、困難な事態に遭遇した時、自ずと声をかけ合い、助け合う共同的な存在であることを、被災した人たちは身を以て体験しました。社会全体も絆やガンバロウの言葉で被われて支え合う社会が息づいてきたかのように思われました。同時に大震災は日本の社会システムが脆弱なだけでなく、虚偽に満ちたものであることを赤裸々にして、改革の必要性を迫りました。

2年半経過した現在、被災地は、社会はどうなっているのでしょうか。被災地からは人が去り、社会は何事もない3.11以前に逆戻りしたかのように見えてしまいます。

以上の状況を踏まえて、鈴木由美子さんの講演では、改めて巨理町立荒浜保育所が大震災・大津波をどう判断し行動したかを語っていただきます。子どもの命を守るためには日頃からの備え、避難訓練がいかに大切であるかが理解できるでしょう。講演に引き続いて行われる本シンポジウムでは、改めて大震災が何であったのか、被災地の現状はどうなっているのかを保育の現場から明らかにするとともに、大震災以降の保育現場の取り組みから何を学ぶことができるかを明らかにします。

大震災の惨状によって、私たちは一時言葉を失ってしまいました。被災の事実を語ろうとすると感情がこみ上げて言葉にならないのです。思い出すことさえ避けるPTSD(心的外傷後ストレス障害)状態に陥ってしまいました。2年経って、やっと、語れるようになった今、世間の関心は薄れつつあるように見えます。原発の危険性は何ら回避できていませんし、地震被害はこれからもど

こで起きるかわかりません。日本全体が「明日は我が身」の状態のはずです。大震災を体験した私たちは、今こそ、この体験から学んだことを語り継ぐミッション(使命)があると思います。

シンポジストとして、4名の保育士に貴重な体験を語ってまいります。渡辺圭吾さんは、津波被害から子どもたち全員を救い、巨理高校の避難所で最後まで地域住民のお世話をし、仮設保育所が始まってからは、子どもたち、保護者の精神的支柱の役割を果たしてきました。子どもたち、地域住民の命を守る保育所の役割について語ってまいります。

高橋悦子さんは、仙台の中心部に保育園があり、地震・津波被害からは免れましたが、背後にある園として、困難な中にあっても保育を続けて保護者の家庭を支えるだけでなく、被災地で障がい児を育てている家庭をも支えました。震災時における支援する立場の近隣の保育園の役割について語ってまいります。

斉藤美智子さんは、福島市の中では放射能汚染の被害が最も深刻な地域の保育園で、子どもたちと保護者の命と生活を守る取り組みを科学の力を使って行ってきました。目に見えない恐怖にどのように対応してきたのか、これまでの経緯を話していただきます。放射能汚染の問題は、被災地の問題にとどまらず全国的な課題でもあります。「科学的に恐れる」取り組みに学びたいと思います。

全国保問研では、被災地支援の活動を広範に取り組んできました。小泉香世さんは、南三陸町のマリンパル(ホテル観洋職場保育所)にたびたび出かけて、保育ボランティアとして支援活動を展開してきました。「何かしなけ

れば、でも何が出来るのか。ずっと自問し続け、保問研を通じて保育所のお手伝いに何度か行くようになって、その疑問はいつまでも、もやもやとあるような気がします。現地の方々や子ども達の大変な状況を見聞きしつつ、ボランティアの限界を感じることもありました。そんな

中で、続けて関わったボランティア先の子ども達の成長を見られたり、先生方とも新たなつながりが出来たり、と、嬉しい体験もできました。」と、小泉さんは語ります。保育園への被災地支援のあり方を考えていきます。

◇ 「仲間と共に生きる」 16:50～17:30

実行委員会は「荒馬」で歓迎する準備を進めています。子どもたちが荒馬で仲間と繋がり、生き生きと躍動する喜びを保育者自身が感じとり踊りたいと思います。

◇ 「ケサラ」 合唱 ～18:00

2

8月25日(日)
日目

◇受付 8:20～

◇第1講座 9:00～10:50

「絵本の世界からごっこ遊び・劇ごっこへ」

田代康子氏（東京保問研・元昭和音楽大学）

クラスの子もたちが同じ絵本を楽しむ読み聞かせは、じつは仲間づくりのチャンスです。読み聞かせ中に発するひとりの子どものことば、それを聞いて他の子どもたちもイメージを広げるかもしれません。読み終わってのおしゃべりから、さらにイメージが広がるかもしれません。遊んでいる最中にフッと前に読んだ絵本のことを思い出したひとりの子どもの一言から、他の子どもたちにもあのことだねとピンときて遊びが急展開するかもしれません。一冊の絵本が子どもたちをつなげていくのです。

さらに、いくつかの絵本を重ねて、子どもたちはマイクラス版ともいえるイメージの世界をつくっているかもしれません。たとえば、雷が登場する絵本は何冊もありますが、かわいい雷から悪さをする雷までさまざまです。以前に読んだ絵本の雷と最近読んだ雷との違いを子どもたちはどのようにしてつなげているのでしょうか。

子どもたちが創りだしたイメージの世界をとらえれば、ごっこ遊びや劇ごっこへ広げていく手がかりが得られるはず。実践を例に考えてみようと思っています。

◇ 「閉会の挨拶」 12:50～13:00

◇第2講座 11:00～12:50

～生きる文化を手渡す遊び心満開、
わらしこ保育園の行事【運動会・卒園式】～

高田敏幸氏（仙台保問研）

ダンブえんちょうは、「保育士は本当に良い仕事だ」と言います。石巻でわらしこ保育園を開いて40年、一貫して、保育の中で大事にしてきたことは変わってはいないと言います。「子どもたちは『快』に向かって生きていく。面白いことをいっぱいやって生きよう。それが文化であり、生きる文化の継承、発展こそが保育の仕事なんだ」…奇跡的に残った子どもたちの絵や、荒馬、御神楽の映像もたくさん見ましょう。子どもたちが生き生きと輝き楽しく遊んでいる姿から、未来をつくる子どもたちに何が大切なことか、大事なものは何か、自分自身が子どもたちと一緒にどう生きていきたいのか、みんなで一緒に考えあっていたいと思います。

全国保育問題研究協議会副代表 西川 由紀子
仙台保育問題研究会事務局長 千葉 直紀

◇申し込み方法

(先着順で受け付けます。定員になり次第締切り、HPにてお知らせします。)

① info@zenhomon.jp まで、名前 住所 電話番号 (職場の場合は名称を記入ください。) を明記してメールで申し込みください。

② 1週間以内に、返信します。

☆返信がない場合は、必ずお問い合わせください。

☆返信があるまで、PCメールからの返信拒否設定をはずしてください。

・返信に受付番号と参加費用及び振込み先を明記します。

③ 8月20日までに受付番号を明記の上、送金ください。

送金を確認された時点で申し込みが確定となります。

・複数人での申し込みが可能です。メールで申し込みできない方に限り、以下のFAXでお申し込みください。

・問い合わせは全国保育問題研究協議会 (電話/FAX 03-3818-8026) まで。

◇会場案内図

8月24日(土) 宮城野区文化センター

〒983-0842 仙台市宮城野区五輪2丁目12-70

TEL 022-257-1213

交通案内

◎JRでのおいでの方

JR仙台駅から仙石線下り方面行きで6分、
陸前原ノ町駅下車すぐ。

◎バスでのおいでの方

仙台市営バス仙台駅前
18・32・35・36 番乗り場
→宮城野区役所前下車すぐ

宮城交通バス仙台駅前34番乗り場→
宮城野区役所前すぐ

8月25日(日) 仙台市福祉プラザ

〒980-0022 仙台市青葉区五橋2丁目12-2

TEL 022-213-6237

交通案内

◎地下鉄南北線五橋駅南1出口徒歩3分

